

平成23年度確かな学力向上のための具体的取組 **評価**

ねらい：確かな学力の向上を図る

「確かな学力」		平成23年度の評価指標と実践課題	学校評価 自己評価B
①知識・技能の習得	▲	学習への取り組み ・傾聴の姿勢を保ち、主体的に課題の解決に臨む態度の向上 ・意欲的な挙手発表のやり取り ・家庭学習習慣の確立	() 昨年 3 (3)
②思考力・判断力・表現力の育成	○		
③学習意欲・学習習慣	○		
「確かな授業力」		授業力の向上 ・教科の壁を越えて相互に研鑽し合う教師集団作り ・生徒に自己肯定感を返せる授業構成の在り方	3
④生徒指導の機能を生かした学習指導	○		
		基礎・基本の定着 ・授業での習得を目指す評価基準設定（評価問題）の実施 ・定着を目指す反復指導や個別回復指導	2

共通実践事項	具体的な取組	達成状況	備考等(課題▲, 成果○)
① 学力向上を目指した学校間の積極的な連携	<ul style="list-style-type: none"> ●小・中連携研究会の実施 諸検査の分析と結果の共有、共通重点項目の設定、小・中相互の課題に応じた努力事項の確認など ・各研究会への相互参加（各指定訪問研究会での授業公開・他校の研究会への積極的参加） ・校外研修情報の共有 	◎ ▲ ○	○小・中連携研究会の学習部会において、連携して取り組める内容について確認できた。 ▲校内での「相互授業参観」において、限られた回数しか参観がされなかった。交流授業への参観もほとんどできない状況であった。
② 「活用する力」を育てるための授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒の変容を意図した逆算の授業構想と、教科の壁を越えるための共通授業パターンの構成 ●中心発問での多様なコミュニケーション活動の工夫（グループ活動、生徒相互、生徒－教師など） ●日々の授業におけるB・A評価基準の設定（B：めあてが達成されたときに到達する基準、 A：めあてを高いレベルで達成したときの基準） ・主として単元の後半に「探求活動」を配置して、思考力・表現力・知識等の総合力を高める。 	○ ○ ▲ ○	○ねらいの達成を客観的に判断できる基準を想定して授業構想に向かうことができた。 ○多様なコミュニケーション活動の実際について、職員間で情報交換、実践ができた。 ▲5教科において、評価問題の作成・実施を日常的に行えない場合があった。

(● 重要な課題であると考えられる具体的な取組)